

平成31（令和元）年度通常総会終了

6月8日（土）に浜松市浜北区中条の「ひだまりのみち さんぽみち」で通常総会を開催しました。

「平成30年度事業報告・決算」と「平成31・令和2年度の役員」の2件の審議が行われ、どちらも提案通り議決されました。

平成31・令和2年度 理事・監事

代表理事 大場 義貴
副代表理事 佐々木 正和 高橋 久美子
理事 加藤 寛盛（事務局長） 榛葉 隆雄 平川 悦子 山本 隆広
監事 左右田 雅子 落合 克能



新理事からの今昔・雑感

代表理事 大場 義貴 「夏の風景と活動の原点」

梅雨明けと共に、今年も暑い夏がやってきました。アスファルトの陽炎、蝉時雨、空には入道雲。何十回も通り過ぎてきた「夏の風景」…。あの夏の日、大学生の私は A 県のあるキャンプ場に向かうバスの中で約40人の小中学生、約10人の大学生と一緒にいました。

学籍番号順に着席する大学の授業があり、安藤さんと隣同士になりました。安藤さんから、障害児と健常児が共に過ごすキャンプや、不登校の子ども達とキャンプを行うボランティア活動に参加しているという話を聞きました。主にB県内の十数校の学生がキャンプカウンセラーとして、社会的な課題に対しキャンプ活動を通して向き合い、活動から得られた「知や問い」を社会に還元していく。そして携わった学生が、社会人となり様々な場所で、「社会的な問題」に取り組めるよう成長していく。

安藤さんから誘われた活動の一環として、私は不登校の小中学生を対象としたキャンプ（4泊5日）の責任者（キャンプディレクター）としてバスに乗り込んでいました。

出発前日から雨が降っていて、土砂崩れがあるかもしれない道中は不安で一杯でした。無事到着し一日目のキャンプファイヤーは室内での雨プログラムに変更。翌日から天気は回復し、子ども達と大学生スタッフは、キャンプ場での夏の体験を楽しみました。

あの時の子ども達は随分大きくなっただろう。その後どうしているのだろうか。あれから三十年以上経っているけれど、この国の「不登校児童生徒数」は増え続け、いわゆる「ひきこもりの人」も増えかつ高齢化していると言われています。そればかりか益々精神的な行き詰まりを抱える人たちは増え、精神保健の増進は大きな社会的な課題になってきています。

三十数年前に出会った子ども達から与えられた「問い」を、精神保健医療福祉という道で、今も私は「解き」続けているのかもしれませんが。



21周年を迎えましたE-JANにとって、昨年度は次の取り組みを考える1年でした。理事会以外の意見集約・検討の場として、副代表理事および現場の責任者・ボランティア部会等が運営ミーティングを行う体制を取り入れました。相談支援事業所として「委託相談の再編」に関する検討や、ひきこもり相談の柔軟な対応、その後の就労支援として「移行支援」を取り入れるか等の検討も始まりました。

私たちの地域では、自殺対策や予防、ひきこもり相談支援、障害者相談支援や就労支援、発達障害児者支援、不登校への適切な支援等、ライフステージに応じた支援体制とそれぞれがつながるネットワークを20年以上掛けて作り上げてきました。しかし、支援を必要とする方にまだ行き届いていない現状もあるため、ひとりでも多くの人とつながるためのシステムを作っていきたいと思います。是非引き続きE-JANへのご協力・ご参加をお願い致します。



副代表理事 佐々木 正和 「私の好きな映画の話『男はつらいよ』」

E-JANの理事を務めさせていただきます、佐々木正和です。皆様、何卒よろしくお願いいたします。

今回は私の好きな映画についてお話させていただきます。

私は映画好きが高じて、演技や演出に興味をもち一時劇団に入っていた時期がありました。その劇団では毎日のように、イタリアのフェデリコ・フェリーニ監督の撮影技法がどうだこうだとか、私にはちんぷんかんぷんの映画談義がなされていました。ですから、そんな演劇人から、好きな映画は?と問われたら、あごを触りながら悩まし気に「テオ・アンゲロプロスの『こうとりの、たちずさんで』かな」なんて小難しい映画名を答えていました。内容は全く理解していませんでしたが…。



私には本当に好きな映画は別がありました。私が本当に好きな映画は山田洋次監督(一部別監督)の「男はつらいよ」の全シリーズ(49作)なのです。渥美清さんの演じる寅さんは、毎回登場する様々なマドンナに恋して、ふられて、悶絶してなんてワンパターンの映画かも知れませんが、そこには深い情が感じられました。それは寅さんからマドンナへの情、さくらやひろし、おいちゃん、おばちゃんからの寅さんに対する哀れみに似た情。また、おいつこの満男から寅さんに対する憧憬のような情などです。様々な情が虚構であるはずの映画の中にまるで現実のように活写されているように感じました。だからこそ、毎回映画のラスト、失恋の痛手を引きずりながらも初詣客に向けて啖呵売する寅さんの声が響く中、カメラがズームアウトし遠景になっていくシーンは、虚構の映画の終わりではなく、そこに行けば今でも寅さんに会えるのではと錯覚してしまうような気持ちになりました。

ある夏の夜の事です。ご高齢の夫婦が営む喫茶店に入ったら、BS 放送で「男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日」が流れていました。常連のお客さんが、「この講義の場面で寅は手を挙げるぞ!」と言ったとおり次の場面で寅さんは手を挙げました。『おじさん、何回この作品を観ているんだ!』と心の中で思いながら、私も喫茶店のご夫婦や常連さんと一緒にげらげら笑って観ました。なんだかとても幸せな時間でした。

さて、最後に…。私自身の恋愛経験は、悲しいことに、寅さんそっくりの失恋・悶絶型を繰り返してきたような気がします。だからこそ「寅さん」にシンパシーを感じ、「男はつらいよ」が大好きなのかも知れません。本年12月に古い映画と新しく撮影したシーンを加えた「男はつらいよ」の新作が作られるそうです。今から楽しみにしています。



副代表理事 高橋 久美子 「E-JANとの出会いそしてこれから」

E-JANの理事2期目、そして今年度副代表になりました高橋久美子と申します。どうぞよろしく願いいたします。

先日大学4年生に向けてボランティアのことについてお話をする機会があり、ボランティアをするきっかけになった出来事を振りかえりました。

わたしには、今年28歳になる自閉症の娘がいて、小さいころからいろいろな方に支えられて生活をしてきています。娘が10代の頃はボランティアさんの存在が大きくて、特別支援学校で行われたサマースクールでは一緒に過ごすとてもいい時間でした。感謝しても、恩返しが出来ず心苦しく思っていました。そんな時、仕事を辞めることになり空いた時間で何か出来ないかと探していたところ、精神障害者の働く喫茶店を紹介してもらい、働くことになりました。

人生で初めて精神障害者の人と接することになり、緊張していたわたしにスタッフは「普通に接してくればいいですよ」と。そこでの出会いが今のわたしのE-JANで働く原点になっています。

E-JANでは10周年のイベントからボランティアとして入り、そこでNHKの福祉ネットワークという番組を担当されていた町永俊雄さんの講演を聴く機会に恵まれ、「ご恩送り」という素敵な言葉に出会いました。そしてわたしたち家族が受けた恩を送ってあげたいんだと知り、今現在もそのことを意識して、E-JANの活動を続けることが出来ています。

お陰様で、E-JANでは仕事としても関わらせていただくこととなり、自分が経験したことのない会計や労務にも携わることが出来、自分自身を成長させる機会にも恵まれています。

今年は新しく「アイデアのたまご事業」を使って、居場所の提供を行う予定です。今後実際に居場所を尋ねてきてくれる当事者の方と話し合いながら進めていけたらなと思っています。

画像は、4年前にE-JANボランティア部のたけのこくらのメンバーと利用者さんと一緒に、京都の「ジョイントほっと」さんに視察に行った時のものです。ここはとても居心地が良く人も温かく地域に根差したカフェで、こんな居場所が出来たらいいなと思って載せました。



理事 加藤 寛盛(事務局長) 「所信表明」

E-JANの理事としては8期目(15年目)に突入しました。20代半ばで理事となり、もう40代に突入しています。精神保健福祉士としては19年目です。30代まではひたすら実践を積み重ね、その中での出会いや幸運にも恵まれて、E-JANは障害者相談支援事業、ひきこもり相談支援事業、地域若者サポートステーション事業を展開することができました。これらの展開も、会員を始めとする地域の皆様のご理解とご協力あってのことです。改めて感謝申し上げます。

そのような中で、法人の発展と成長過程に必要な序盤のヤマかもしれませんが、現在の課題は人材育成と中長期視点に立った法人運営です。自分が先頭に立ってやっていた時は、とにかく目の前の必要なことをやり続け、それが今の広がりになりました。しかし既に一人の力ではやりきれない規模まで大きくなりました。今では、それぞれの事業を担う職員の成長なくして、これからのE-JANの発展もないと考えるようになってきました。これからの自分の役割はその個々の成長を促すことだと思いはじめています。

地域に求められるE-JANであり続けられるよう、職員、会員の皆様には中長期計画も示さなければいけません。今後も支援部門、ボランティア部門が活発に活動できるよう、精一杯取り組んでいければと思います。

理事 榛葉 隆雄 「オリンピックに思う」

どのオリンピックが最も印象に残っているかと問われれば、私は迷うことなく「モスクワオリンピック」と答えま
す。

その翌年に大学に入学し、入学式当日、応援団に入団してしまいました。

中学校でも高校でも団長の座にあった私は、大学進学に際しても「その応援団があるから」という理由で、
現役時代には北海道大学しか受験しませんでした。しかし、いかに恋焦がれても片想いというのが青春の常
です。夢がかなうことはありませんでした。さすがに二浪する余裕はなく、北の大地とは全くカルチャーの異なる
花の都・大東京で学生生活をスタートさせることになりました。私大へ入学する以上、勉学に励む、法律家とし
て身を立てることを目標とする、そう固く誓って入学式を迎えたのでした。

全く似合わない背広姿の新入生がほとんどでしたが、私は着慣れた学生服で参加しました（もともと、髭も
生やしていましたが）。他に学生服を着ていたのは、セレクションで入学した運動部の学生だけです。つまり、新
入生を獲得しようと出店を出しているサークルが、学生服に声を掛けることはなかった…。私もあと一歩で門
を出ようというタイミングで唯一声を掛けられたのです。「もしかして、新入生？」

これが中央大学応援団との出会いでした。「北大もいいけどうちのリーダーも見ていってくれ」。新入生歓迎
のリーダー公開をするからと誘われ、私は正面で直立して見させてもらいました。フレー、フレーというエールが、
私に向かってくる。本当に、そのエールは私のために贈られているように感じました。望みは断たれてもここで
自分は受け入れられた、と救われる思いで涙があふれそうになりました。直後、私は「入団させてください」と
言っていました。固くとも、もろさを兼ね備えた誓いでした。

せっかく借りたアパートは3か月も経たないうちに解約し、私は運動部の合宿所へ引っ越すことになってしま
いました。各部の猛者ども総勢700名以上が暮らす寮です。そこには、前年、政府が参加をボイコットしそのた
め出場できなかったモスクワオリンピックの代表選手が何人もいました。レスリング100キロ超級の日本チャン
ピオンで代表選手だった竹中先輩からは、二段ベッドの上でフォールされ、息のできない手荒な歓迎も受けま
した。ただ、選手の日常を身近に見ていると、政府の判断がいかに理不尽なものであったかということ思い
知らされました。

36歳の時、このまま法律家にならずに人生を終わらせていいのか、と自問したのは、二十歳前後のこうした

経験が下地にあったのは間違いありません。つまり、失望の中で救いの手
を差し伸べられたことや公権力の作用によって人の一生が左右され得る姿
を直接見たことが、今の私の原点とも言えるのです。



(写真は大学4年生の時。先輩が卒業する際にいただいたモスクワオリンピ
ックユニフォームの帽子。日の丸は金モールで縁取りされていて、つばの裏
には「男なら」と書いてある。)



理事 平川 悦子 「できることからコツコツと」

私が福祉を志したきっかけは、15歳の夏に参加した長野県かりがね学園のワークキャンプでした。今も思
い出す風景があります。田んぼの中の畦道を、私は“てるさん”と散歩していました。施設に泊まり込んでの生
活は戸惑うことばかりで、物静かなてるさんとの散歩は唯一心が休まる時間でした。てるさんと手をしっかり握
り合って歩きながら、私は思いました。てるさんと私、何の違いがあるだろう。てるさんに障がいがあるってことは、
私が数学が苦手だってことと、おんなじなんじゃないか。こうして支え合って歩くように、支え合って生きていくの
は当たり前のことじゃないか、と。

その時の思いを胸に、私は現在、浜松市におけるスクールソーシャルワークの定着に取り組んでいます。課題は山積していますが、思いを共有できる大切な仲間と共に、一歩ずつ前進しています。

文部科学省の「スクールソーシャルワーカー活用事業」は、ソーシャルワーカーにチャンスとピンチを同時にもたらしました。学校における問題を契機に、困難を抱えながらも支援につながない地域の子も家庭にアプローチできるというチャンス。一方、ソーシャルワーク自体が社会的に認知されていない中で、その専門性・必要性をわかりやすく示さなければならないというピンチ。まさに両刃の剣です。それでも、子どもに関わる地域の中核資源である学校、また幼児期からの入口と青年期への出口でもある学校にソーシャルワーカーが存在する意義は非常に大きいと確信しています。



与えられたチャンスを生かし、スクールソーシャルワークが地域における子ども家庭福祉のシステムの一部になることを目標に、多くの方々のお力をお借りして試行錯誤を続けたいと思います。まずは、できることから、コツコツと。目の前の子ども、お母さん、お父さんと丁寧に向き合うことを日々重ねたいと思います。家庭の養育力に左右されず子どもの健やかな成長が保障される世の中に、ほんの少しでも近づけるように。



理事 山本 隆広 「E-JANの活動で大切にしたいこと」

理事を務めさせていただきます山本隆広です。当事者の立場からE-JANの活動に参画させていただきたいと思い、今回も理事に立候補させていただきました。みなさん、どうぞよろしくお願いいたします。

私にとってE-JANは当事者や家族、市民ボランティアの方々などいろいろな人と出会い、ゆったりとつながっていることのできる場となっています。

思い返すと、私とE-JANの出会いは引きこもりからだんだん回復し、もう少しいろいろ活動をしてみたいと感じていた時でした。それまでの私は今以上に外に出ると緊張しやすく、息苦しさを感じたり、食事も吐き気を感じて喉が通らないこともありました。そのことが気がかりとなって交友関係も疎遠になり、仕事にも一歩踏み出せず引きこもり状態でした。そんなどん詰まりの時、通院していた精神科診療所の紹介で地域活動支援センターに通所するようになりました。畑作業や歌を歌ったりなどしてメンバーと一緒に生活していくなかで温かさやエネルギーをもらい、だんだんと外とつながっている感覚を持つようになりました。自分を出すこともできるようになってきました。そんな時、「じゃんだらにい」の発表を聴いたのがE-JANとの出会いのきっかけです。“何かもう少しやってみたい”その思いがE-JANの活動に私を動かし、それを受け止めてくれたのがE-JANだったと今になると私は感じます。

E-JANでは、バザーの準備やイエローレシートの活動、バーベキューや遠足などのお楽しみサロン、語り合いの場の茶話会、WRAP(元気回復行動プラン)の普及啓発など様々なことをやらせていただきました。のびのびと活動させてもらえるなかでいろいろな人たちに出会い、回を重ねるごとに顔なじみになる人も増えてきました。

その後、就労するようになるとE-JANの活動に参加できる時が少なくなり、ふとさびしさを感ずる時もありました。このことが改めてE-JANのつながりが自分にとって大切だったんだと感ずる機会になりました。ともに活動する顔なじみの人、温かく見守ってくれる市民ボランティア、専門職の方、当事者の人たちの存在です。

今後も私自身、E-JANで様々な人たちと出会い、つながりを広げていきたいと思っています。そしてこれからもE-JANが障がいや様々な事情で地域に孤立している人や行き詰まっている人への眼差しを持ち続け、ともに行動(Action)を起こすことのできる組織体であるよう理事として活動してまいりたいと思います。

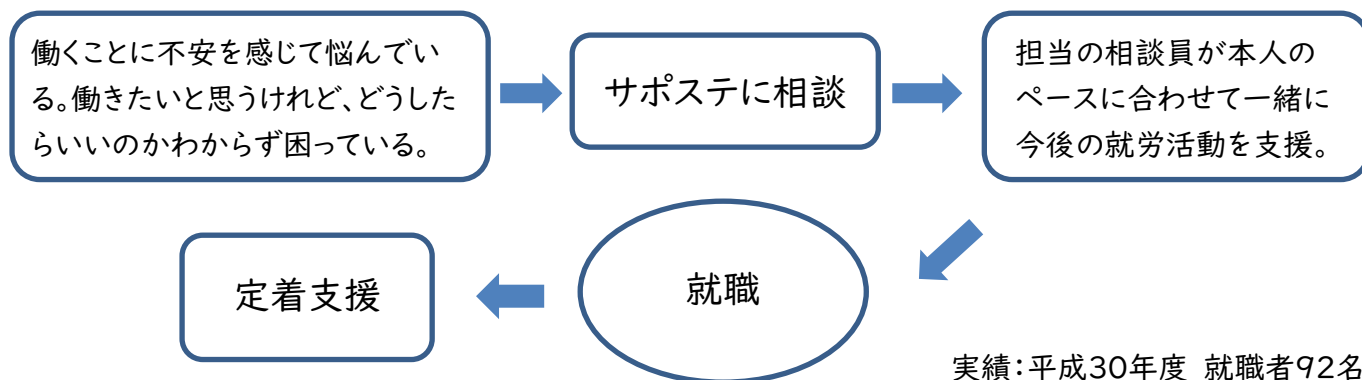
より一層、E-JANが温かく・楽しい(Joyful)つながりとネットワーク(Network)を広げていくことを期待しています。



地域若者サポートステーションはままつ（通称：サポステはままつ）

名前は聞いたことあるけど…。「サポステはままつ」ってどんな所？何をしてるの？と思われる方もいると思います。そんな方に、サポステが行っている内容の紹介をします。多くの人にサポステの支援内容を知っていただき、支援が必要な方が迷うことなく利用できるようなれればと思います。


「サポステはままつ」は就労に関する相談をする場所です！





実績：平成30年度 就職者92名

※今回ご紹介するのは、サポステはままつで行っている主な支援内容です。これ以外にも相談者に合わせた相談支援を行っています。

サポステの利用対象者は15歳から39歳までの無業の方です

毎日 10:00 ～ 17:00	相談支援	担当：キャリアコンサルタント・精神保健福祉士 状況に合わせて支援プログラムを提案します。 相談者の課題解決に向けた支援とともに、職業の選択、面接や履歴書の書き方等の助言を行います。
(月) 10:00 ～ 12:00	グループワーク ポパイ 全3回 	担当：精神保健福祉士 就職に向けてのセミナー 1回目 発声練習：自己紹介・ビジネスマナー 2回目 発声練習：新聞メモ取り 3回目 発声練習：電話応対メモ取り
(火) 10:00 ～ 12:00	SST 基礎 (ソーシャルスキルトレーニング) 全8回	担当：臨床心理士 人とのやり取りに自信がない、不安がある、上手くいかないと感じている人を対象。 実際の仕事場面で起きそうなことを想定して、その対処法を学び実際に体験する。 電話の掛け方、困ったときの声の掛け方、ちょっとした一言、とっさの一言、Goサイン・No Goサインなど

(水) 10:00 ～ 17:00	学びなおし支援 	担当:特別支援教育士
		不登校や中卒などで基礎学力に不安がある相談者に対し、高校卒業程度の基礎的学力を身に付けるための支援。高等学校卒業程度認定試験の取得支援、文字をきれいに正確に書く練習、就職に必要なバイク・自動車免許を取る勉強、等。
(木) 10:00 ～ 12:00	SST 応用 (ソーシャルスキルトレーニング) 全8回	担当:臨床心理士
		人とのやり取りに自信がない、不安がある、上手くいかないと感じている人を対象。遊びやお題トークなどを通じて、小グループでコミュニケーションを経験し、対人スキルを学びながら他者と居ることに対する不安や緊張を和らげていく。
(木) 13:00 ～ 17:00	心理カウンセリング	担当:臨床心理士
		就職に向けた動機づけ、自己肯定感の補強、物事の視野を広げ、課題の整理のための心理カウンセリングを行います。
月1回	職場見学	担当:職場開拓員
		月に1回、2社程度、職場見学を実施しています。見学をすることで物流業、販売業、サービス業、農業など、様々な業種の職業イメージを高めます。
月1回 ～ 随時	職場体験 	職場体験の種類
		倉庫作業(仕分け、ピッキング、リサイクル) 清掃・整備作業(福祉施設、カート等) 農作業(みかん収穫、野菜収穫等) 入力・封入作業(アンケート、DM等)



新入職員紹介(サポステはままつ)



臨床心理士 姜 瑛希(かん・よんひ)

4月からサポステで働いています。利用者みなさんが、自分の強みや傾向を知り、次のステップに進むために、微力ながらもお手伝いをさせて頂いています。笑い上戸ですが、カウンセリング中は雑談でも笑いすぎないように気を付けます。どうぞよろしくお願ひします!



サポステはままつ 浜松市中区中央1-13-3 3F 浜松市若者コミュニティプラザ内 ☎053-453-8743

たけのこくらぶ報告

「たけのこくらぶ」は、E-JAN 会員の有志でつくっているボランティアグループです。

☆ イエローレシートキャンペーン ギフトカード贈呈式 4月13日(土) イオン浜松市野店

昨年4月から本年2月(8月、11月を除く)までの毎月11日に行われたイエローレシートキャンペーンで、E-JANのボックスに入れていただいたレシートの1%分 33,300円 のギフトカードをいただきました。

毎月11日にイオンで買い物をしたら、イエローレシート(レシートを持ち帰りたい方は、サービスカウンターで発行してくれる仮レシート)をボックスに入れて帰るといってお客様の流れができるよう、これからも店頭でのキャンペーン PR に協力していきたいと思います。E-JANの今年のボックス番号は「4」です。

マックスバリュ助信店でもイエローレシートキャンペーンを行っています。6月7日に 8,700円 のギフトカードをいただきました。

いただいたギフトカードは、たけのこくらぶの活動用品と、クラブハウスで使用する雑貨品の購入に使わせていただきました。ご協力ありがとうございました。(大谷)



☆ お楽しみサロン(花めぐりハイキング) 4月21日(日) 9:00~15:00 はままつフラワーパーク



みなさんが楽しみにされていた花めぐりハイキングですが、予定していた4月14日が雨天予報のため予備日の実施となりました。この日は急に参加できなくなった方が多く、ちょっとさびしい花めぐりハイキングになってしまいました。

屋外のお楽しみサロンの場合は特に、参加者間の連絡や情報共有を密にし、魅力的な活動にしていきたいと思いました。(大谷)

☆ 茶話会 5月12日(日) 13:30~16:00 クラブハウス

今年度から隔月で行われることになりました茶話会の第1回目でした。参加者は10名、うち当事者の方の参加が7名ありました。

いつもより少人数でしたので、話しやすいように輪になり、自己紹介から始まり普段気になっていることや困っていることなどを出し合いました。就労のことや、飲んでいる薬のこと、疾患の話などもありましたが、重い雰囲気にはならず当事者の方がお互いの悩みを共有したり、アドバイスをするなどピアサポート的な会になり、大変有意義でした。

茶話会は、E-JANの会員の方、興味のある方はどなたでも参加可能です。詳細はHPに載せていきますので、良かったら参加してみてください。(高橋)



☆ 出張バザー 6月18日(火) 13:00~14:00 地域活動支援センターだんだん



恒例のバザーに行ってきました。

メンバーもベテランになり、チームワーク、手順に慣れてきました。

何よりも頼りになる助っ人、Tさん(男性)がいてくれて助かります。品物を並べるのもひと仕事、どこに配置するか、見やすく目につく並べ方を考えるのも頭を使います。そうこうするうちに、開店時間の1時が迫ってきます。急いでおにぎりをほおばり、準備終わりです。

最初はちらほらでしたが、だんだんお客さんが増え活気が出てきました。高級タオル、日用品などがあつという間に売れました。節約生活になじんでいるらしく、百円位のものでも慎重に選んでいました。中には安いので大量に買い込んでいる人も。お金の使い方がわからず、スタッフのアドバイスを受けて買い物する人も。毎年思うのですが、来年こそもっと喜んでもらえるものを持ってこようと。でもいつの間にか忘れて同じことの繰り返し。続けること、覚えてもらうことも大切だから長い目でがんばろうと思います。(平野)

☆ 茶話会 7月21日(日) 10:30~12:30 クラブハウス

たけのこくらぶ部員と当事者合わせて19人が参加し、二つのグループに分かれて話をしました。

わたしの入ったグループでは、親なきあとの話題からスタートし、8050(ハチマルゴーマル)問題、自立支援へと話が広がって行きました。「8050問題」という言葉をわたしは知らなくて、みなさんの話を聞いているうちに何となくわかってきましたが、その後ネットで調べてみました。「ひきこもり」が背景にある50代の子供の生活を80代の親が支えていて、高齢化した親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなることのようにです。

一人暮らしを始めた方のこれまでの流れを聞いたり、金銭管理のできない方への対応策を話し合ったり、山積した問題を少しずつ解決に結びつけていくような茶話会でした。

困った時には社会福祉協議会へ相談することも一つの方法との意見をいただき、少し気持ちが明るくなりました。(大谷)



☆ お楽しみサロン(うたごえタイム) 7月21日(日) 13:00~15:00 クラブハウス

歌う前に参加者同士で握手して笑い合うラフターヨガをやりました。ラフターヨガをやる前はちょっと疲れ気味だったのですが、一緒に笑っているうちに少しずつ明るくなりました。



歌を歌う時は、一人ひとり、自己紹介と歌いたい歌のリクエストをして、みんなで一緒に歌いました。カラオケなどを歌うのは苦手な私ですが、みんなと一緒に歌うと一体感があって楽しく歌えました。一緒に歌っていくうちに“そういえばこんないい歌もあった”“歌詞は知らないけどこの曲は聞いたことがある。いい歌だなあ”と感ずることもあり、心が揺さぶられました。

終わりは「ハッピーハッピー」とみんなでパントマイムのような仕草をして終わりました。久しぶりに大きな声で笑ったり、歌を歌ったりしました。気分が明るくなり温かい時間を過ごしました。(山本)

E-JAN 9月～12月の予定

9月	1日(日)	茶話会	13:00～ 15:30	クラブハウス
	11日(水)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
10月	11日(金)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
	20日(日) 27日(日)予備日	お楽しみサロン(バーベキュー)	10:00～ 14:00	「グループホームぐるぐる」さん 前庭
11月	11日(月)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
	17日(日)	浜北ふれあい広場(バザー出店)	10:00～ 14:00	サーラグリーンアリーナ
12月	1日(日)	茶話会	13:00～ 15:30	クラブハウス
	11日(水)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店

・お楽しみサロン、茶話会の情報は、実施日が近づきましたらE-JANホームページでもお知らせします



事務局より



匿名を希望される正会員様へ

正会員の皆様には、総会への出席をはじめ、E-JANの運営に深く関わっていただきありがとうございます。さて、本年度は理事の改選がありました。その関係書類として「正会員名簿」を通信50号に同封させていただきました。入会申込書に匿名を希望されている方を除いた名簿となっていますが、入会申込書には匿名希望としていないが、匿名を希望されている方がいらしたようです。そのため、改めて匿名を希望される正会員様にご連絡をいただきたいと思っております。電話、FAX、メール等何らかの方法でE-JAN事務局へお知らせください。

また、サポート会員の方で、匿名として入会申込書に記入したかどうかご心配な方はご連絡ください。

個人情報につきましては細心の注意を払って管理しております。どうぞご理解いただけますようお願いいたします。

～編集後記～

・暑さに耐えられず毎日アイスを食べたらお腹が冷えました。夏を乗り切るには何が効果的でしょうか。(桜井)

・車の外気温計が、36℃を指しているのを見て、「体温と同じですか…」と呟くことが増えた今日この頃(笑) 毎日35℃を超えないで欲しいと願って日々を過ごしています。(佐藤)

・表紙タイトル部分が新しくなり、あわせて文字のフォントも、みんなに見やすいユニバーサルデザインに変わりました。このページの予定表が以前のフォントです。比べてみて、いかがでしょうか?(杉浦)

・昨年の夏は猛暑続きで、来年は涼しくなるかなあと考えていましたが、今年の夏も厳しい暑さが続きそうですね。しかも今年は湿度が高いので、余計暑くなるんだとか…。こまめな水分補給に心掛けましょう!(大畑)

・毎回のことですが、通信の発行間際になってばたばたしてしまいます。でもわたしの場合、ばたばたするってことは頭をフル回転させて、老化防止に役立っているのかもしれない。(大谷)